

まちづくりの主体は市民です。
練馬・生活者ネットワークは、市民主体のまちづくりを実現するため、市民と都議会、行政とのパイプ役に代理人(議員)を擁立し、ともに活動しています。



それって政治！

～政治は生活の不安や困ったことを解決する道具です～



すど
のぶえ

<http://sudo.seikatsusha.me>
1962年東京都北区生まれ。1985年国際商科大学(現東京国際大学)教養学部国際学科卒。専門商社、外資系銀行、不動産会社(宅地宅建取引士)勤務。DV被害女性プログラム・デートDV防止プログラムファシリテーター認定取得。2018年練馬区内でデートDV防止啓発団体Animo設立、「NGO国際女性の地位協会」で女性差別撤廃条約の普及活動、CAP(子どもへの暴力防止)プログラム活動「NPO法人青い空」で活動を展開。練馬・生活者ネットワーク政策委員



や
ない
かつこ
克子

<http://yanai.seikatsusha.me>
1962年東京都荒川区生まれ。1981年都立大泉北高校卒。新日本製鐵株式会社勤務。1998年仲間と共に食のワーカーズ設立、企業組合ワーカーズ・コレクティブ「轍・いたばし」に参画。2014年4月練馬区議会議員補欠選挙で当選。現在、2期目。これまでの所属委員会：議会運営委員会、企画総務委員会、環境まちづくり委員会、医療・高齢者等特別委員会所属、交通対策等特別委員会。現在の所属委員会：環境まちづくり委員会、清掃・エネルギー等特別委員会



き
みがき
けいこ
圭子

<http://kimigaki.seikatsusha.me>
1957年練馬区桜台生まれ。1980年学習院大学理学部数学科卒。都内私立高校数学科教諭、講師勤務。2011年4月練馬区議会議員選挙に初当選。現在、2期目、生活者ネットワーク幹事長。これまでの所属委員会：議会運営委員会、企画総務委員会、健康福祉委員会、文教児童青少年委員会、医療・高齢者等特別委員会、清掃・エネルギー等特別委員会、決算特別委員会副委員長。現在の所属委員会：議会運営委員会、企画総務委員会、交通対策等特別委員会

練馬・生活者ネットワークは来年4月練馬区議会議員選挙にむけて、現職のきみがき圭子、やない克子、新人すどぶえ、3人を擁立決定しました。
現政権は忖度、強行採決など、市民が求めている説明責任を果たしていません。民意が無視され続け、一部の人々の手で政治が動かされていく現実には怒っています。一方で、政治に期待しないのか低い投票率が続いています。私たちは、政治を「生活の道具」として使いこなし、市民が自治する「まちづくり」を提案し続けています。ひとりじゃない子育て・介護、環境・福祉優先のまち、持続可能な社会の実現に向けて練馬のまちを変えていきます。

2019年練馬区議選にむけて候補予定者擁立決定

福祉

●在宅生活を支える医療と介護の連携をすすめます ●空き家や空き店舗などを活用し、高齢者や子どもの居場所づくりをすすめます ●地域で暮らすために高齢者や障がいのある人にとってのバリア解消をすすめます

平和

●憲法9条をまもり、地域から平和をつくります

環境・エネルギー

●ごみの発生抑制(リデュース)と再使用(リユース)をすすめ、環境を守ります ●原発ゼロ！市民発電所をすすめ、省エネ・再生可能エネルギーを促進します ●生物多様性の視点で練馬のみどりを守ります

議会改革

●傍聴者への資料配布など情報公開をすすめます

子ども・若者

●保育の質を確保し、待機児童の解消をすすめます ●貧困による教育格差、生活格差の解消をめざします ●子どもの権利条例制定を求めます

働く

●誰もが差別されない働き方を求めます ●男も女も一緒に家事・子育て・介護をにねる働き方をすすめます

防災・まちづくり

●女性の視点や多様なニーズに配慮した防災対策に取り組みます ●住民の意見が反映されるまちづくりをすすめます

食と農

●添加物、農薬、放射性物質など、食の情報公開をすすめます ●練馬の農業を守り、地産地消をすすめます

「わたし」発の市民政治で提案します。

こだわって40年。生活者ネットの提案で実現！

- 資源のリサイクルを基本に、「練馬区リサイクル推進条例」制定
- 区民参加で区独自の介護保険条例制定
- プレパーク(冒険遊び場)の拡充
- 「化学物質子どもガイドライン」の策定を要望し、都独自基準設定
- 「東京都消費生活条例」改定。「東京都食品安全条例」制定
- 女性の視点が反映された「練馬区地域防災計画」策定
- 市民活動推進法請願活動がNPO法成立につながる
- 議員特権の廃止を求め続け、議員年金、日額旅費(交通費)廃止。政務活動費の公開

この子ども一人じゃない！ つながるための子どもの居場所とは？

学校や家庭、地域は子どもにとって心地よい居場所だろうか？

発達支援「Kids Sense」の茂木厚子さんは、発達支援の進んだカリフォルニア州で、発達に気になる子どもを対象とした「早期介入セラピー」を学び、実践経験を積み帰国。「親が家庭でできる・ホームページセラピー」を広めるための講演や、



▲講師の茂木厚子さんを囲んで左から「誰かを置き去りにしない」をテーマに講演した茂木厚子さんと、会場を考えた

保育士・教員研修、発達相談などの活動をしています。また「発達を促す十分な遊び・遊び場」が足りていないと「石神井・冒険遊びの会・プレーパーク」の世話人を務めています。

●**発育のスピードはみんな違う！**
椅子に座っていられないのは、体の芯が十分に育っていないため座っているのが不快だから。ブランコでゆれたり、ぐるぐる回る遊具で遊ぶことで感覚が育ちます。「大きくなった息子が今でもブランコに乗りたがるのは、発達に必要なからとわかってよかった」「多くの人が知っていたら、公園で変な目で見られなくなるのにと子育て中のお母さん。

「孫やその先の世代が魚を食べられなくなったらどうするのか」と講師の中井八千代さん(容器包装の3Rを進める全国ネットワーク)から投げかけられました。

すでに、レジ袋有料化やプラスチックのストローを廃止した企業もあります。まず、私たち一人ひとりがプラスチック製品を「もらわない、買わない」意識をもち、大量生産、大量消費の生活を見直すことです。そして、多くの人に広げていきたいと思っています。

環境部会 区議会議員 きみがき圭子

発達に関する知識がないことが偏見を生み、子どもの居場所を奪っています。みんなと同じことができなからと問題視しないで、抱えている困難さを軽減する配慮が大切です。

●薬より感覚の統合や行動療法

「文字を見てもわからないが音で聞くとわかる」「バランスボールに座っていると集中できる」など、障がいの特性に合わせた接し方で、子どもは落ちついてきます。現状では、学校で診療や薬を勧めることに驚きました。大人の都合で子どもに強制するのは、人権侵害です。しかし、保護者もそのことに気づかず、悩んでいるケースがあります。学校、家庭、地域のどこに相談しても支援につなげる体制づくりを求めています

子ども部会 菊地靖枝

子宮頸がんワクチン、大丈夫？ 予防接種は本当に必要？

5月に開催したワクチン学習会では、予防接種情報センター全国代表の古賀真子さんは、子宮頸がんワクチンについて「他のワクチンに比べ副反応報告数が突出し、あまりにひどいワクチン。長期にわたり副反応に苦しむ被害少女たちが、全国4か所で製薬会社と国に対して裁判を起こしている」と報告しました。

区内在住の被害者と家族から「行政からの勧めで受けた子宮頸がんワクチンだが、接種後に強い体の痛み・意識消失や記憶障害の症状があらわれ、学校を替わらなくてはならなかった。大変さは当事者でなければ

「わからない」と切実な思いが伝えられました。

現在、生まれて3か月から1歳になるまでに10種類以上のワクチン接種が勧められています。ワクチン接種は薬剤を体に入れるため、リスクがゼロとは言えません。「もうワクチンはやめなさい」の著者である医学博士の母里啓子さんはすべてのワクチンを否定しないが「まずワクチンを接種するべき」とする現状は問題と指摘しています。

学習会には子育て世代の参加者が多く、関心の高さがうかがえました。予防接種はあくまで任意で受けるものです。今後も自ら判断できるように情報の発信に努めます。

福祉部会 区議会議員 橋本けいこ

どうする？ 海川のプラスチック汚染！

7月10日、環境部会主催で海のプラスチック汚染について学習会を開催しました。

日本でのプラスチックの生産量は、この65年間で190倍に増え、一人1年間にペットボトル約100本、レジ袋約300枚を使っています。ポイ捨てされたり、風に飛ばされて川から海に流出したごみの約7割がプラスチックです。

次世代に 「農あるまち」を残そう 種子法廃止から考える



▲7月17日、自ら無農薬米を栽培し「我が家の米は自給率100%」と言うジャーナリストで、練馬区在住の大江正章さんを講師に迎えて学習会を開催

種子は本来、世代を超えて受け継いでいくもの。ところが、高度経済成長期以降、生産者の自家採種から、購入(しかも90%以上が輸入)する時代へ移り、現在は種子が投機の対象になっていきます。病害虫や気候、食味や生産性向上など、地域に合った品種の育成・開発には長い年月を要します。食の安全と食文化、農業を守るためには、日本の種子や地域で開発してきた新品種を守ることが重要です。

多国籍企業の席巻や遺伝子組み換えイネの生産などに対して、危機感を募らすだけでなく、「何をどう作り、何を食べるか」生活者である私たち自身が決める「食べ物主権」と、農家が自家採種し、保存した種子を利用・交換・販売する「生産者の権利」を広げていくことが大切だと、大江正章さんは言います。

23区の中で最大の農地面積を有する練馬区。年々生産者が減少する一方で、若手の生産者が活躍してきています。環境・働く人の人権・持続可能な価格保障など、どういう方向の農業が大切なのか、生産者と学び合って、将来世代に「農あるまち」を引き継いでいきたいと思っています。

区議会議員 やない克子

インフォメーション

ワイワイしゃべり場スペシャル
「障害者差別解消法から2年 社会はどう変わった？」
日時：10月7日(日)午後2時～4時30分
講師：尾上浩二さん(NPO法人DPI日本会議 副議長)
場所：たすけあいワークスふるしき
(西武線豊島園駅下車すぐ)
資料代：500円 定員：35人
問合せ・申込み：練馬・生活者ネットワーク
電話 03-3993-4899 メール info@nerima-net.gr.jp

練馬・生活者ネットワークのルール

1. 議員を職業化せず、特権化しないために、議員は最長でも3期12年でローテーション(交代)します。
2. 議員報酬は市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開します。
3. 選挙は市民のカンパとボランティアで行います。

カンパ振込先 【郵便振替】00100-6-398010
練馬生活者ネットワーク